武道授業　実践の概要紹介

昭和町立押原中学校における武道授業の実践紹介

昭和町教育委員会

昭和町は山梨県の中央、甲府盆地の中心に位置し、県内で唯一「山のない町」です。釜無川と笛吹川の中間に開けた平坦な地域であり、古くから豊かな水の恵みを利用して、穀倉地帯として発展してきました。

町章は町名の頭文字「シ」を図案化し、円形は町民の団結と平和を表すとともに、中央の鋭角は産業文化の飛躍的発展を端的に力強く象徴しています。中央の「∧」は富士山をイメージしています。

人口は平成30年4月現在2万227人です。

町の木　乙女椿

町の鳥　ひばり

町の花　れんげ

町章

○研　究　内　容

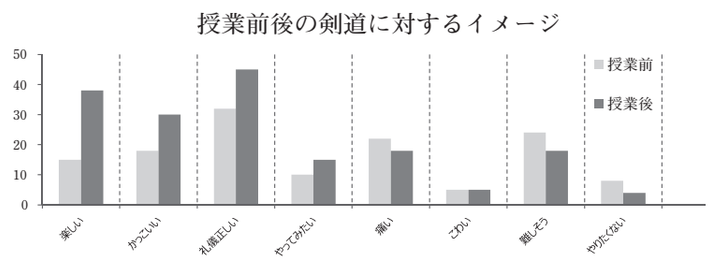
【模範指導】
構えや竹刀の振り方、面打ちや胴打ちの模範から学ぶ

【礼儀作法】
正座の仕方や右起左座の作法、礼の仕方等を学ぶ

【グループ対抗戦】
試合、審判、記録等の役割を果たして対抗戦を行う

【グループでの学び合い】
気・剣・体について互いの様子を伝えアドバイスし合う

【アンケート結果】
授業前後のアンケート結果より考察した



授業前後の生徒の剣道に対するイメージを比較すると、良いイメージの項目で人数が増加し、悪いイメージの項目で減少している。このことから、授業を通して、剣道に対して肯定的なイメージをもつ生徒が増えたと考えられる。

【今後の取組】
攻守を交えた試合へと発展させたい

来年度も実施したいと考えている。１年生では、今年度の取組を継続したい。また、今回の学習では、単元の終末に面･胴打ちについて「攻め」と「守り」を決めて対抗戦を行ったが、２年生では、小手打ちを含め、攻守を交えた試合を行いたいと考えている。

昭和町立押原中学校

1 はじめに

昭和町立押原中学校は、昭和22年、山梨県のほぼ中央に位置する昭和町（当時昭和村）に、町内唯一の中学校として全校生徒276名で開校しました。地域から寄せられる教育への期待や関心も高く、町当局の教育への積極的投資と相まって、明るくまじめで優しい生徒が集う落ち着いた学校です。

校訓「進取創造」のもと、教育目標として「自ら進んで学び、たくましく生き、志を育てる生徒の育成」を掲げ、生徒一人一人のよさや可能性を伸ばしながら、主体的で人間性豊かで、自らの生き方について考え自己実現できる生徒の育成をめざし、日々の教育活動を推進しています。

現在生徒数528名、職員数51名の大規模な学校です。

2 コミュニティ・スクールの取組

コミュニティ・スクールは、学校、保護者、地域住民などが共に知恵を出し合い、協働し、「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。本校は、平成27年度より、昭和町のコミュニティ・スクールとして指定されました。

そこで、コミュニティ・スクールの取組として、学習支援ボランティアを募集し、生徒の学習を充実させるために、「授業」において、ゲストティーチャーやＴＴ（ティームティーチングの指導支援）として、その専門性を発揮しています。

武道の授業においても、地域の方に、1年次、2年次の剣道授業で指導していただいています。

コミュニティ・スクールのイメージ

3 剣道授業実践について

本校では、毎年1、2年生全員を対象として、9月下旬頃から9時限（1時限は50分）、剣道の授業を実施しています。

1年次は、「礼法や安全に対する心得を理解し、基本動作を正しく身につけよう」をめあてとし、防具をつけず、竹刀で受ける面打ちまで行っています。1時間目は、「礼に始まり礼に終わる」と言われるように、武道の基本である礼法や竹刀の説明、握り方などを学習しています。

2年次は、前年度の学習を生かし、「防具を身につけて、基本動作、簡単な打突をしてみよう」をめあてとし、防具を身につけ、相手をとり、面打ちを行っています。

○実践内容

【1年次】

時限	時限授業の実践目標
1	〈オリエンテーション〉講師のあいさつ、自己紹介、授業の進め方の説明 〈新しい学習〉礼法（立礼、座礼、左座右起）竹刀の説明、握り方、中段の構え
2	〈前回までの復習〉礼法（立礼、座礼、左座右起）竹刀の握り方、中段の構え 〈新しい学習〉足さばき、手ぬぐいの巻き方
3	〈前回までの復習〉礼法（立礼、座礼、左座右起）竹刀の握り方、中段の構え、足さばき、手ぬぐいの巻き方 〈新しい学習〉素振り
4	〈前回までの復習〉礼法（立礼、座礼、左座右起）竹刀の握り方、中段の構え、足さばき、手ぬぐいの巻き方、素振り
5	〈前回までの復習〉礼法（立礼、座礼、左座右起）竹刀の握り方、中段の構え、足さばき、手ぬぐいの巻き方、素振り 〈新しい学習〉９歩の間合い、一足一刀の間合い
6	〈前回までの復習〉礼法（立礼、座礼、左座右起）中段の構え、足さばき、手ぬぐいの巻き方、素振り ９歩の間合い、一足一刀の間合い
7	〈前回までの復習〉礼法（立礼、座礼、左座右起）中段の構え、足さばき、手ぬぐいの巻き方、素振り ９歩の間合い、一足一刀の間合い 〈新しい学習〉基本打突（面打ち）防具を付けていないため、竹刀で受ける
8	〈まとめの学習〉礼法（立礼、座礼、左座右起）中段の構え、足さばき、手ぬぐいの巻き方、素振り ９歩の間合い、一足一刀の間合い、基本打突（面打ち）竹刀で受ける 〈新しい学習〉　二段の技（小手ー面）

1年1、2組　　保健体育科指導案

1．単　元　　武　道（剣道）
2．題材名　　剣　道
3．本時の学習
（1）日　時　　平成 29 年　10 月 10 日（火）　1校時　　4時間目／9時間計画
（2）場　所　　昭和町　地域交流センター（体育館）
（3）本時の目標
①剣道の基本動作である、構え・体さばき・面打ちの３動作についてペア学習を通して理解を深める。
②安全に配慮しながら、ペアで打ち込み練習を行い、既習の学習を活用して「気・剣・体」の一致した有効打突を学習する。
（4）本時の学習活動と思考力・判断力・表現力の育成について
　ペア学習により仲間の動作を観察しながら、言語活動を仕組みながら既習の内容について深めていく。また、打ち込み練習のなかで、既習の学習内容を活用しながら有効打突となる面打ち動作を工夫しながら改善していく。
（5）展開

学習過程	学習内容と活動	学習支援上の留意事項	評価の観点と思考力・判断力・表現力の育成について
5	■整列、健康観察 本時の学習目標、内容の説明 ■練習Ⅰ（前時までの復習）	○ペア学習での観察のポイントとなる部分書き出して整理しておく。	・前時までの学習内容を知識として整理していく。
10	・体さばき・足さばき、構え ・踏み込み足の練習（前進しながら素振り面打ち）	○上記の動きのポイントを、発問をしながら引き出し、確認しながら指導していく。	
15	・中段の構えからの素振り（面打ちの３挙動、前進後退面打ち）	○教師による指導から、ペア・グループによる学習へ移行していく。 ○指示・観察の役と練習役で学び合いをしながら復習していけるように巡回指導。	・既習の内容をペアの動きを観察し、アドバイスすることで深めていく。知の整理と深化。
20	■練習Ⅱ ペア学習 ・構え・体さばき・面打ち		
25			
30	■練習Ⅲ ペアによる面打ち練習 打ち役、受け役を決めて行う。	○安全面への配慮 練習場所や方法を確認し、指示をよく聞いて練習させる。	・ペア学習によって深まった学習を、打ち込みの練習のなかで、活用していく。
35			
40			
45		○次時の活動と予習しておくことを宿題として伝える。	・家庭学習で予習を促す。
50	■整列、振り返り あいさつ、片付け		

1年生ではじめて武道（剣道）を経験する生徒が大半なので、礼法や基本的な用語を繰り返し指導しました。教師の動きを見せながら言葉を引き出して、何度も声に出しながら知識の定着を図りました。また、ペア学習で互いの動きを観察して、既習の学習内容をもとにアドバイスを行わせました。

指導者も毎年、講師の先生を招いて指導法を学びながら授業を行ってきたので、ある程度生徒に教えていける知識が身についてきました。個々の生徒への適切なアドバイスができるように、さらに指導力を高めていきたいと思います。

日常の授業から規律や発声の習慣をつけておくことが大切です。ペア学習は、各単元で取り組んでおいたので、ある程度自然に取り組ませることができました。

5 今後の課題

コミュニティ・スクールの取組により、地域の専門家に教えていただけることはありがたいのですが、講師の先生に授業の大部分を展開していただいてしまうこともありました。講師に頼り切りになるのではなく、事前の打ち合わせを綿密に行い、教師と講師がさらに協働して生徒たちによりよい指導ができるよう工夫を重ねていきたいと思います。

また、生徒たちには、ボランティアで指導してくださる講師の姿を通して、生徒たち自身も地域に貢献できるよう考えさせています。

さらに、武道を通して学んだことを、日々の生活の中で生かせるように指導をしていきたいと思います。

講　師　に　よ　る　示　範

講師の指導により竹刀の扱い方を学ぶ

礼法をしっかりと学習する

6 おわりに

コミュニティ・スクールの学習支援ボランティアの方に講師になっていただき、2学年分の授業にかかわっていただけるということが大変ありがたく感じました。

講師の先生は、県の剣道連盟から「中学における剣道の授業の指導案」を指導されていて、それに基づいて授業計画の作成に協力していただくことができました。1学年は基本動作をマスターし、2学年は防具をつけて、本格的にかかり稽古を行えるまでになりました。

全国的に、武道授業では、柔道を取り入れる学校が多いのですが、講師の先生からは、「剣道はほぼ怪我がないので、多くの学校で剣道を取り入れてほしい。押原中は剣道を選択していただいているのでありがたい」とのお話もいただきました。

また、教師も一緒に指導法を学ぶことができました。剣道の授業を楽しみにしていた生徒も多く、授業態度は真剣なものでした。講師との協働の中で、より専門的な指導を取り入れることができ、生徒の武道への関心を高める授業にすることができました。